

こんな相談ありました!!

内職商法にご注意を!

消費生活相談窓口 ☎22-1411 番内線173番



相談事例1

新聞の折り込み広告にボールペンの試し書きの内職を見つけた。「月額6万円以上可能。自宅で空いた時間に副収入。書き具合を見るだけの簡単な仕事」などあったので夫婦で契約し、内職材料が届いたときに登録手数料2人分6万円を宅配業者に払った。ネットの書き込みで悪質業者と分かったので解約したい。契約書類には「解約はいつでもできるが、登録手数料は返金しない」とあるが、どうにもならないのか。(30歳代 夫婦)

相談事例2

新聞の求人折り込み広告に「パチンコの打ち子で高額副収入」というのを見つけた。夫婦で問い合わせた。内容は、ユウギ協会とパチンコ台メーカー協賛で広告掲載業者がパチンコ台を管理している。人気の有無でパチンコ台の使用にムラが出



るので、不人気な台を活性化させる仕事。仕事前に業者に電話し、指定された台で5〜7千円分パチンコをすれば、10万円ほどの当りが出るよう、そのパチンコ台を遠隔操作する。儲けの半分を業者に送金し残りが収入になる。このような説明で、広告には書いてなかった諸経費2人分80万円を、借金して振り込み契約した。2日ほど指示どおりに実行したが当たらず、業者に連絡すると「珍しいことが起きた」と言われ、だまされたと気付いた。振り込んだ銀行に相談すると、警察と消費者センターへの相談を勧められた。(30歳代 夫婦)

長引く不況で賃金や当てにしていたボーナスが減るなど、思い描いている人生設計に変更が生じている人もいると思います。生活費補てんのため、住宅ローン返済のためと理由はさまざまですが、「空いた時間に楽に副収入!」というキャッチフレーズに心引かれる人も多いことでしょう。

事例1の仕事内容は、単にボールペンの書き具合を見るのではなく、400字ほどの文章が手本として配布され、「コピーでもしたように手本どおりに、手書き500枚ができないと、約束の収入にはならないというものでした。受け取った内職材料はボールペン数本と白紙500枚。非常に困難な仕事内容ですし、3万円ですれらを買ったようなものでした。「解約はいつでもできるが、登録手数料は返金しない」とありましたが、クーリングオフを通知し、当窓口からの交渉で2か月後に返金されました。

事例2は「パチンコ・パチスロ必勝法、攻略法」などの情報販売と同種被害で、全国的に発生しています。(社)日本遊技関連事業協会に問い合わせたと

ころ「ユウギ協会」というものではなく「必勝法、攻略法、遠隔操作」というものは存在しないということでした。さらに、「攻略情報自体が虚偽である」との裁判所の判断も出ています。このケースはだます目的で広告まで出す悪質なケースで、消費者相談窓口だけでは被害回復は困難と判断し、同種の被害対策弁護士に対応を依頼しました。後日、契約書上の業者の住所は架空の住所でしたが、弁護士の尽力で2分割での返金合意され、合意書も交わされました。その後、半額は返金されたとの報告があり、あと半額の返金を待っている段階です。弁護士が介入しても返金されないケースも多く、合意書を交わしても返金が行われるまで信用できないということでした。世の中にうまい話はありません。通常、払ってしまったお金を取り戻すのは非常に困難です。両事例とも幸運なケースなのです。くれぐれもご注意ください。万一の時には困消費生活相談窓口までご相談ください。



はーとふるるメッセージ

2008

特選作品紹介 最終回

学年は、応募時のものです

生かせるユウジン

曾我 愛実さん (東中学校2年)

私は、毎朝ニュース番組を見ます。最近殺人・自殺といった悲しいニュースばかりが当たり前のように報道されています。毎回同じような事件が繰り返され、今年に入ってからでも、数え切れないほどたくさん罪のない人々が命を奪われています。このような事件は減るばかりか、日に日に増しているようにさえ思います。なぜ、こんなにも人を苦しめる悲しい事件はなくなるのでしょつか。

最近、私はある殺人事件に関してのニュース番組を見ました。そこでは、犯人が事件を起こす動機を語っていました。「家族が相談にのってくれなかった。」「仕事がいやになった。」「テレビに出たかった。」「加害者の身勝手な言い訳に憤りを感じましたが、私は、加害者はきつと寂しかったのだらうとも思いました。進学、就職も本人が望むようにはならず、相談する相手も出来ず、何もかもが嫌になって犯罪に手を

のばしてしまったのだと。しかし、彼の「人の命を奪う。」という行為は人間が最もしてはならない事です。その結果、被害者の未来の可能性、輝きが途絶え、周りの人々に大きな悲しみを与えてしまったのです。そして、自分自身も、自分の身内も地獄に陥としてしまったのです。自分の命を自ら絶つという行為も決してしてはならない事です。自分の生きる権利も勝手に奪ってはいけないのだと考えます。その命を産んでくれた親、親せき、友達はどれだけ悲しい思いをするのでしょつか。

私たちは、生きたくても生きられなかった人たちがいる事を忘れてはいけません。今も、病気や栄養不足などで苦しんでいる人たちはたくさんいます。自暴自棄になって、無差別殺人を犯してしまった人や自殺をした人たちは、絶望のどん底にいたかもしれません。しかし、命というものがある限り、生きていく限りは、はい上がるチャンスもあつたのではないでしょつか。私は、もし今自分の境遇に絶望感をもっている人がいるなら、「続く命が与えられているという事、それは、まだ

未来に輝きを見出すチャンスが残されていると言つ事だよ。」と伝えたいです。そして、他人や自分自身の生きる権利は決して奪ってはならないものだと皆がしっかりと認識し、悲劇がなくなり、明るい社会になることを心から願います。私も、両親から尊い命が与えられたのですから、希望を持って強く生きていきたいと思ひます。

選評

本当に嫌な出来事が多くなってきましたね。無差別殺人や自殺は、どのような理由があろうとも自他の生命を尊重するという観点からあってはならないことですね。あなたが主張されているように、生きたくて懸命に努力されている人もおられるのです。また、あなた自身も、両親から受け継いだ尊い生命を精一杯生かし、強く生きようとされている思いが伝わってきます。

標語・中学生の部

見つけよう今の自分のできることに

若林

宏和さん (西中学校3年)

